

第4章 第3次計画での取組

I 家庭・地域

1. 読書へのきっかけづくり

親子参加型の講演会の開催

講習会や講演会については、引き続き読書のきっかけづくりになるもの、親子参加型のものなど、市内在住のさまざまな分野の人材を活用して開催します。様々な団体との共催も視野にいれつつ、企画していきます。

中高生が読書に関する情報を自ら発信する場づくり

中高生が読書に関する情報を自ら発信する場づくりについては、ホームページのさらなる活用を進めます。また、ポップの作成を通しておすすめの本を紹介する機会もより多くの方に参加していただけるよう、企画していきます。ビブリオバトルなど新たな企画も提案していきます。

訪問サービスの充実

地域に対する取組としては、子育てサークル、子ども会館・子どもの家や障害児活動支援センターへの訪問サービスを継続させ、現在訪問していない施設へはPRを充実させます。サービスの充実や拡大に向けて、おはなしボランティアとの協働をさらに進めます。

ブックスタート事業の継続

ブックスタート事業については、今後も取り組んでいきます。

幼稚園・認定こども園・保育園での絵本の読み聞かせの充実

幼稚園・認定こども園・保育園での絵本の読み聞かせ、本の紹介を推進します。

読書通帳の配付

「読書通帳」を作成して、小・中学生に配付し、たくさん本を読んだ子どもを表彰するなど、子どもたちが楽しく本を読んでいくことが出来る環境を整えます。

2. 子どもに関わる施設の充実

施設の蔵書の充実

子育て支援センター、子ども会館・子どもの家、幼稚園・認定こども園・保育園では関係課との連絡を密にし、引き続き蔵書の充実を図ります。図書館からの寄贈本搬送方法についても関係課と連携し、取り組んでいきます。

3. 情報の収集と発信

保護者へのPRの継続

保護者に向けて、本や図書館のPRを継続します。

「かまくら読書活動支援センター」での情報収集

読書に関する情報を、引き続き、「かまくら読書活動支援センター」で収集します。

図書館ホームページのさらなる活用

インターネットを活用した、子どもの読書に関する支援情報のPRについては、図書館ホームページを小学生や中高生にさらにわかりやすく、親しみやすいものとし、情報をPRします。

イベント情報の地元メディアとの連携

読書関連イベントのPRなど、情報発信の場として地元メディアを活用することに関しては、定期的にメディアに情報を提供していきます。

本の紹介リスト・ブックリストの活用

本の紹介リストの配布、インターネットでの配信については継続事業とし、図書館ホームページ上のおすすめのブックリストも活用しながら、本を紹介していきます。

幼稚園教諭・保育教諭・保育士との情報交換の場づくり

幼稚園・認定こども園・保育園での絵本の読み聞かせのさらなる充実を目指して、図書館職員と幼稚園教諭・保育教諭・保育士が情報交換できる場を設定します。無理なく情報交換を行える体制を整えていきます。

II 学校

1. 読書へのきっかけづくり

学校での環境づくり

学校での読書環境づくりのため、今後も、市図書館と学校図書館専門員・読書活動推進員の交流・情報交換をすすめ、子ども同士でブックトークを行うための支援や必要な資料の充実を図ります。

調べ学習のための資料の充実

調べ学習のための資料や学級文庫の充実については、平成23年度より市図書館で開始した学習パックや子ども読書パック等を活用します。市図書館では、学習パックのテーマを増やし（毎年1パック追加予定）、より利用環境を整え、学校図書館支援を図ります。

2. 学校図書館

学校図書館の蔵書の充実

学校図書館の蔵書数、蔵書内容の充実については、蔵書数だけでなく利用しやすい蔵書、利用される蔵書構成の充実を図ります。そのための学校資料収集方針、選定方針策定に、学校図書館、市図書館で情報交換を行いながら取り組みます。利用状況についての調査も行っています。

市内全市立中学校に学校図書館専門員を配置

学校司書の配置については、中学校が読書活動推進員の配置にとどまっていることが課題となっています。市内の中学校に学校図書館専門員を配置できるよう、課題を整理しながら取り組みます。

利用しやすい学校図書館づくり

利用しやすい学校図書館づくりやテーマ展示についても、学校図書館専門員・読書活動推進員を中心に引き続き行います。

3. 連携

学校図書館の蔵書のデータ化

蔵書のデータ化については、情報収集を行い、次のステップにつなげていきます。

学校図書館と市図書館間の搬送の充実

学習パック・子ども読書パックなど学校貸出をより利用しやすくするため、学校図書館と市図書館の間の搬送を増やし、依頼の増加に対応できる体制づくりを行います。

学校への訪問サービスの実施

市図書館が学校への訪問サービスを行い、連携の充実に努めます。

学校図書館と市図書館の連携の充実

地域ごとの小学校・中学校・高等学校・市図書館で、よりきめ細かい協力・連携が行えないか、模索します。特に高等学校との連携を積極的に行っていきます。

学校図書館と市図書館との連携の充実については、教職員、学校図書館専門員、読書活動推進員、教育指導課職員と図書館職員との情報交換の機会を増やし、要望を把握し、実現に向けて努めます。

かまくら読書活動支援センターが、学校とおはなしボランティアをつなぐ橋渡しとなるよう取り組みます。

Ⅲ 図書館・行政

1. 施設

乳幼児連れ、子どもが来館しやすい空間づくり

乳幼児と一緒に来館しやすい施設づくりについて、駐車場・授乳及びおむつ替えのできる場所の整備もありますが、庁舎管理の部署とも連携を密にし、利用者が気兼ねなく乳幼児連れで来館できる体制を図書館として整えていきます。

配架の工夫やレイアウトの改善、展示

各図書館、児童コーナーの配架やレイアウトを定期的に見直し、各図書館の利用者に合った、手に取りやすい本の見せ方を工夫していきます。

「図書館コンシェルジュ」の配置

図書館において、子どもの本の案内や図書館の利用案内を行う図書館コンシェルジュを配置します。

2. 資料

蔵書数、蔵書内容の充実

ブックフェア等で本の中身を確認しながら、子どもの要望にかなう児童書を選書していきます。寄贈本も有効に活用しながら、蔵書内容を充実させていきます。児童の読書をささえる資料費を充実させられるよう、努力していきます。

3. 読書相談

リクエストへの対応・レファレンスへの対応の充実

あらゆる機会に子どもたちの求めている本をリサーチし、子どもたちが求めるときに自由に本を手にすることができる環境を整えます。レファレンスや要望に合わせ、学習パックを追加するなど充実させ、対応していきます。

4. 行事

子どもと本をつなぐ行事の充実

「あかちゃんとおはなしかい」を定着させ、乳幼児期から絵本やわらべうたに親しむ環境を整えます。「おひざにだっこのおはなしかい」「おはなし会」と年齢を重ねるごとに参加できる場を提供します。

そのほか、夏休みには、小学生が図書館員の仕事を体験するとしょかんいんになつてみよう、休館日にお気に入りのぬいぐるみが図書館にお泊りする、ぬいぐるみのおとまり会など、子どもと本をつなぐ行事を今後も充実させていきます。新たにビブリアバトルの開催を実施していきます。

子どもをとりまく保護者への支援として、妊婦向けのおはなし会の開催についても取り組んでいきます。

利用者のニーズに合わせて土日の開催についても取り組んでいきます。

職場体験活動

図書館における貸出や書架整理等を通して、図書館の仕事や利用方法等をより理解してもらうために、中学生の職場体験活動、高校生等のインターンシップを積極的に受け入れていきます。

ヤングアダルト対象の行事の開催

中高生の意欲を引き出すような行事、ビブリアバトルの開催などを検討していきます。中学校、高等学校図書委員などと交流を図り、要望の把握に努めます。

5. 訪問サービス

訪問サービスのPRと充実

引き続き子育てグループ、小学校、中学校、高等学校、子ども会館・子どもの家、障害児活動支援センターへ訪問サービスを実施します。現在、訪問していない施設への訪問サービスのPRを充実させます。幼稚園・認定こども園・保育園にも要望に応じた訪問サービスを行います。

6. 人材育成

図書館司書の専門性の向上

神奈川県図書館協会主催の研修や、職員同士の勉強会などを重ね、常に図書館職員としての専門性の向上に努めます。

教職員・学校司書・ボランティアへの研修や支援

教育指導課や教育センターと連携し、夏休みの教員研修や学校図書館専門員・読書活動推進員への研修を行います。

読書活動を推進するボランティアの養成講座

図書館や地域でのおはなしボランティア希望者を対象とする「おはなしボランティア養成講座」を継続して開催します。おはなしボランティア養成講座修了生全員を対象に「ステップアップ講座」を開催し、おはなしボランティアのスキルアップを支援します。

保護者・幼稚園教諭・保育教諭・保育士対象の講座の開催

保護者や幼稚園教諭・保育教諭・保育士対象の講座について、わらべうた講習会や本の修理講座など、ニーズにあった講座などを企画・検討します。またこのような講座を訪問サービスとして行っていることを、広くPRしていきます。

7. 連携

かまくら読書活動支援センターの充実

かまくら読書活動支援センターでは、主に学習パックや子ども読書パックの整備や相談などを行っています。支援センターを中心として、読書相談や訪問サービスのPRを充実させ、関係機関とのネットワークの強化を図ります。高等学校との連携も進めていけるよう、努めていきます。

かまくら読書活動支援センターや鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議で築いた図書館と学校等、関係部署との連携を機軸に、図書館が橋わたしとなり、訪問先とおはなしボランティアとの連携を支援します。

また、読書についてのなんでも相談窓口として、児童関係のあらゆる質問にお応えできるよう、なお一層の充実を図ります。

読書の楽しさを伝え、読書できる環境を整備し、子どもと本をつなぐ大人を支援するために、支援センターの機能を果たして行きます。

鎌倉市読書活動推進計画に関する連絡会議の充実

鎌倉市子ども読書活動推進連絡会を発展させ、鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議となり、計画を策定、計画の進捗状況を確認・検証するための機関として機能してきました。連絡会議の場で情報交換を行いながら、子どもたちの読書環境がより整備されるための方策を検討、提案していきます。そして、関連部署との協力体制をより充実させ、計画の円滑な実施につなげていきます。

子ども読書パックの充実

課題だった搬送体制を整備することができ、より多くの学校等に利用しやすい環境が整いました。幼稚園・認定こども園・保育園、子どもの家・子ども会館などへの貸出も行えるので、引き続きPRを強化していきます。

ボランティア同士の情報交換の場の設定

今後もボランティア同士の情報交換の場としての「本の海サポーターズ交流会」を開催していきます。情報交換から発展させた場となる工夫をします。

学習パックの充実

子ども読書パック同様、搬送体制が整ったことで、より多くの学校へ利用してもらえるよう、PRを強化していきます。今後も要望を取り入れながら、パックを組み替えたり、追加したりして、利用しやすい形態を追求していきます。

8. 地域性を活かして

子ども向け地域資料の充実(近代史資料担当の子ども向けサービスの検討)



引き続き、地域資料の収集をして、調べ学習などに役立てられるようにします。近代史資料担当の子ども向けサービスを企画していくことを検討します。鎌倉の昔話について、子ども向けの絵本か紙芝居の作成等に取り組んでいきます。

地域性を生かした本の紹介リストの作成

調べ学習で役立つような、地域性を生かした本の紹介リストを作成していきます。

ファンタスティック☆ライブラリー(図書館まつり)の開催

市民や市民団体と連携しファンタスティック☆ライブラリー（図書館まつり）を開催し、子ども向け行事を充実させていきます。

鎌倉らしいイベント・地元書店や地元出版社との連携

地元書店・地元出版社と連携し、鎌倉らしいイベントを開催できるよう努めます。

9. 環境整備の大切さを広く伝えるために

図書館にちなんだ日の記念イベントの開催

図書館にちなんだ日については、引き続きイベントを開催し、子どもや保護者が本と触れ合う機会をつくります。

イベントの際に、子どもたちが借りたり読んだりした本について記入し保存できる「読書通帳」を作成し、配付していきます。

読書関連情報やイベントのPR

引き続き、様々な媒体でPRを行い、さらに効果的なPRの手法を検討していきます。

子どもと保護者・教職員に向けた本のリストの作成

それぞれニーズに合った本のリストや図書館だよりを作成していきます。

本の紹介リストの配付、インターネットで配信

引き続き、なつやすみにおすすめの本のリストを小中学校へ配付し、図書館ホームページにも掲載します。そのほかにもおすすめの本については、ホームページで定期的に紹介していきます。

10. 様々な子どもたちの読書活動のニーズにあわせたサービス

録音図書の貸出しサービス

マルチメディアデージーを導入し、特別支援学級や障害児活動支援センターへ貸出しするサービスを実施しています。また、視覚の不自由な子どもへは、録音図書の郵送サービスも行っています。これらのサービスについて、定期的にPRをし、ニーズを掘り起こしていきます。

様々な子どもたちの読書活動のニーズにあわせた訪問サービス

障害児活動支援センターへ定期的に訪問サービスを行っています。不登校やひきこもりの子どもたちのいる施設にも、定期的にPRを行い、様々な子どもたちが本に親しむ環境を作っていきます。

読書についてのなんでも相談窓口

かまくら読書活動支援センターの機能の一環として、様々な子どもたちの読書活動のニーズの把握に努め、「読書についてのなんでも相談窓口」でも、幅広く対応できるように取り組んでいきます。

多文化サービス・バリアフリーおはなしかい

障害のある人もない人も参加していただけるバリアフリーおはなし会として、「手話付きおはなし会」や「布えほんであそぼう」などを今後も行っていきます。日本語以外を母語とする子どもたちも、そうでない子どもたちも楽しめる、「英語のおはなしかい」「せかいのわらべうた遊び」など、多言語おはなし会を開催していきます。

職員研修の実施



様々な子どもたちへのサービスは、公共機関として常に考えていかなければならないことであり、今後も要望の受け皿を作っていくために、職員ひとりひとりが取り組んでいく必要があります。職員研修では手話のできる職員から指導を受けています。また、様々な子どもたちの読書活動のニーズにあわせた研修へ積極的に参加していきます。

